



海上保安大学校／海上保安学校 入学案内

JAPAN
COAST
GUARD
ACADEMY
&
SCHOOL



海を舞台に、夢は広がる。

何にかえがたい誇りが、ここにある。

治安を維持する。

密漁や密輸・密航などさまざまな海上犯罪や、テロの未然防止のために巡視船艇や航空機を用いて徹底した監視、取締りを行っています。



領海を守る。

領有権主張活動を行う諸外国などから国境海域を守り、わが国の権利をしっかりと諸外国に示すべく領海などにおける海洋権益の保全に当たっています。



生命を救う。

海難に際しての体制を常に整え、有事には巡視船艇や航空機を運用して迅速に救助を実施。また、自己救命策の確保について啓発活動を行うなど海難の未然防止策も講じています。



青い海を守る。

美しい海洋環境を守っていくための海洋汚染の調査や監視取締り、環境保全の指導・啓発活動を行っています。



災害に備える。

船舶の衝突、沈没などによる油の流出事故や地震・津波などの自然災害に備え、機材の整備、訓練の実施など有事の際に迅速に対応するための体制を整えています。



海を知る。

航海の安全確保や海難防止のために、測量船などでさまざまな海洋データを観測し科学的調査を行います。また、これらの情報を広く提供しています。



航海を支える。

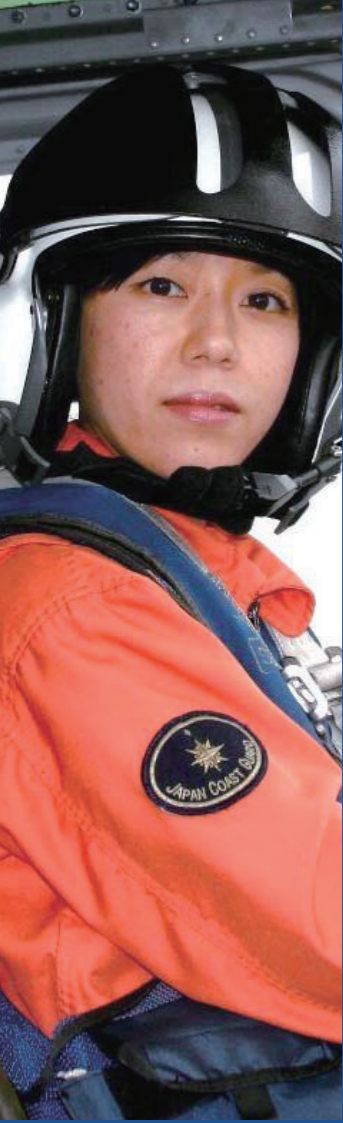
船舶の航行に必要な安全情報の提供や管制業務、灯台などの航路標識の整備ほか、海上交通の安全を確保するための支援を行っています。



海を繋ぐ。

多様化、国際化する海上保安を取り巻く諸情勢を踏まえ、諸外国との幅広い連携・協力関係を構築。危急の事態には派遣活動なども行います。





正直、体力勝負の日々だけど責任も、楽しみもある職場

平成15年 海上保安学校航空課程 卒業
平成23年 海上保安大学校特修科 修了
堀田 美保子

ヘリコプター操縦士として、海難時の吊上げ救助や捜索などの人命救助、外国漁船の監視・取締りなどの幅広い業務を行っています。夜間や荒天時などなかなか厳しい飛行も多く、体力勝負の日々ですが、無事に任務を遂行できるよう乗組員とともにがんばっています。ちなみに航空基地では、外国の海上保安機関と連携訓練を行うこともあり、国際感覚を身につけ見聞を広める絶好の機会（！）とばかりに、それぞれの国の人々と積極的に交流を深めています。

海上保安官になって本当に良かった、皆さんにも勧めます

昭和51年 海上保安大学校本科 卒業
海上保安庁 警備救難監
岩男 雅之

海上保安庁のバックボーンは、正義と仁愛です。「正義は治安の維持であり、仁愛は人命保護の象徴である」と初代長官が述べられています。私はその精神を礎に海上保安大学校を卒業し、その後海上保安学校の教官も経験しました。海上保安庁の両教育機関では、多くの学生が目的意識をしっかりと持って勉強、訓練に励んでおり、素晴らしい環境です。海上保安庁は、英文名称「Japan Coast Guard」といいますが、そのロゴマークの赤い色は、使命感・正義感に燃える海上保安官の情熱を示しています。



外務省での初仕事は震災の風評被害者人々の絆に助けられた

平成15年 海上保安大学校本科 卒業
在サンフランシスコ日本国総領事館 副領事
倉品 剛

外務省へ出向し、在外公館職員として在留邦人の保護、通商問題の処理などを行っています。「現場第一線」という意味では海上保安庁と同じです。日本から各省のプロフェッショナルが出向しており、「チームジャパン」として仕事をこなすのはなりませんので、海上保安庁で培った集団生活のいろはが役に立っています。赴任後の初仕事は、東日本大震災に伴う風評被害対策でした。改善に力を発揮したのは、日本への支援を快く表明してくれた人々との絆。幅広い分野の現地関係者と知り合うことが多く、良い刺激を受けています。

新しい知識を最大限吸収！業務にフィードバック！！

平成18年 海上保安大学校本科 卒業
海上保安庁総務部教育訓練管理官付研修訓練係
山根 幸子

海上保安大学校を卒業後、巡視船及び陸上勤務を経て希望が叶い、海事関係国際条約や海事行政などを学ぶためスウェーデンの大学院へ研修として約1年半留学しました。その後今度は逆の立場になり、職員に対する研修、訓練を行う業務に就いています。海上保安庁の多岐に亘る業務を遂行するのに必要な専門知識や技能を得るために行う研修や訓練を計画し、職員が現場で研修成果を発揮することが「海上の安全」に繋がると信じ、日々仕事をしています。



海上保安官、 として生きていく選択。

海上保安大学校、海上保安学校を卒業して、今現役の海上保安官として活躍する先輩たちは今、何を想っているのでしょうか？



みなさんの安心・安全のため日ごろから有事の備えを

昭和49年 海上保安学校航海課程 卒業
昭和56年 海上保安大学校特修科 修了
和歌山海上保安部巡視船さい 船長
青木 敏博

本庁などの陸上勤務・巡視船艇の乗船勤務において、外国漁船の監視・取締り、大型船同士の衝突爆発炎上事故における救助活動、民間救助機関の育成作業等の警備救難業務を中心に従事。震災では行方不明者の捜索、災害支援作業なども行いました。現在は警備実施等強化巡視船の船長として、テロ警戒などの事案対応時の現場指揮、そして平素は各種訓練を行い有事に備えています。みなさんの安心・安全を左右する非常に遣り甲斐のある仕事です。

多くの経験を経てようやく必要な知識・技能が習得できる

平成23年 海上保安学校船舶運航システム課程 卒業
秋田海上保安部巡視船でわ 航海士補
賢木 詩織

警備救難業務の第一線で活動する巡視船への希望が叶い、高速高性能型巡視船に乗船して半年が経ちます。現在は警備救難業務の習得に力を入れており、船舶の立入検査、特に捜査実務面の習得では、積極的に現場に臨場して業務を行うことを何よりも大切に感じています。海上保安官として必要な知識・技能の習得には、まだ多くの時間と経験が必要ですが、諸先輩方の教を確実に身につけ、また、同僚と明るく協調し、業務遂行できるよう励んでいます。

「海の環境を守る」その裏方として働いているのが私達です

平成19年 海上保安学校船舶運航システム課程 卒業
海上保安庁総務部海上保安試験研究センター化学分析課
吉田 玲

船艇勤務を経て、現在、海上保安試験研究センター化学分析課で仕事をしています。化学分析課では、捜査の裏付けとなる、油や水質等の分析・鑑定を行っています。分析・鑑定というと、それなりの知識が必要だと思われかもしれませんが、やる気さえあれば、非常に勉強しやすい環境ですし、先輩方が指導・応援をしてくれるため、分析未経験者であっても大歓迎です。私も日々指導を受け、いつか分析・鑑定のエキスパートになれる様努力しています。

『海を守る』意識を常に持ち海洋権益の保全に貢献

平成22年 海上保安学校海洋科学課程 卒業
海上保安庁海洋情報部海洋情報課 低潮線情報官付
中村 圭佑

私は現在、領海や排他的経済水域の根拠となる低潮線の保全情報を管理する仕事に携わっています。私たち海洋情報部は陸上での勤務を主とするため、海難救助や領海警備として巡視船艇や航空機で現場に赴くことはありません。しかし、私の仕事のように海洋権益の保全につながる海洋情報業務も「海を守る」という仕事の一つです。専門的な知識や経験を要するため、まだまだ学ぶべきことが多い私は、これから更に貢献できるよう切磋琢磨していきたいと思っています。



海上保安大学校

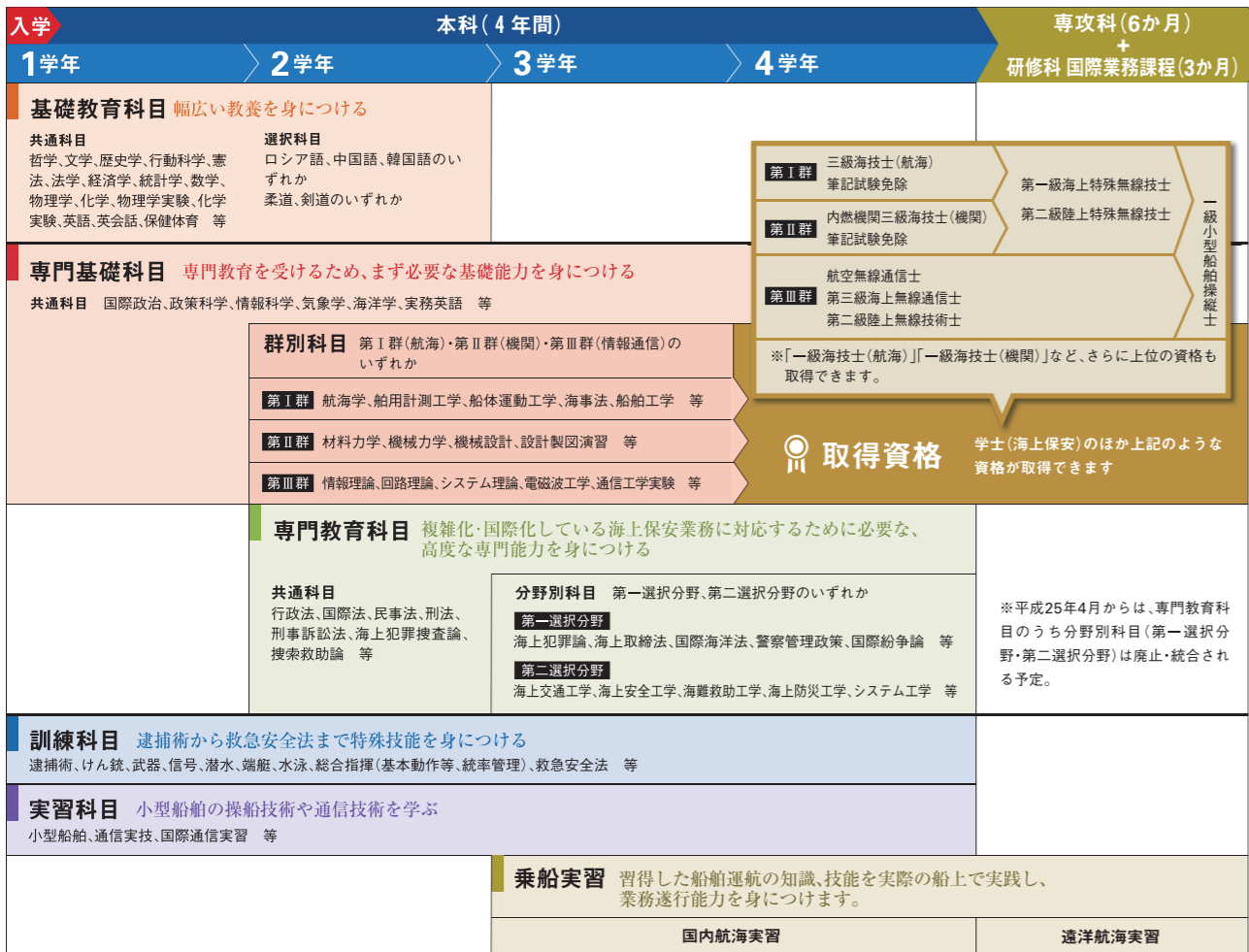
(広島県呉市)



将来の幹部職員として必要となる高い教養と見識、また強靱な気力・体力、優れた人格を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成。多岐にわたる海上保安業務を全うできる能力・責任感を養います。卒業後は巡視船の初級幹部職員として配属され、能力および適性にに応じてさまざまなキャリアを積み、本庁、管区海上保安本部、海上保安部署などの幹部職員になります。

カリキュラム

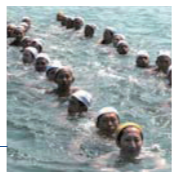
2学年の途中から、航海・機関・情報通信という3つの分野のうち一つを選び、卒業後の進路を決定していきます。本科を卒業した学生は専攻科に進み、まずは遠洋航海実習を行い、国際感覚を養います。その後6ヶ月間の研修科国際業務課程において、語学を中心とした国際対応能力や実践的な海上保安業務に関する知識を修得し、巡視船の初級幹部職員などとして配属されます。



※卒業後、「潜水士」「特殊救難隊員」「国際取締官」「航空機の「パイロット」といったスペシャリストとして活躍する道もあります。

年間行事

- 4月: 入学式
- 5月: 遠洋航海出港式
- 6月: 海神祭(学生祭)
- 7月: 遠泳訓練 ●
- オープンキャンパス
- 8月: 遠洋航海帰港式
- 帆走巡航 ●
- 11月: 特別研究(卒業論文)発表会
- 1月: 耐寒訓練
- 3月: 卒業式 ●



1日の流れ

06:30	起床(起床整列・体操・清掃)
07:10	朝食
08:20	課業整列
08:45	授業
12:00	昼食
13:00	授業
	授業終了後サークル活動
17:15	夕食・入浴
19:00	自習時間
22:15	帰宅門限
22:30	巡検・消灯

※原則として17:15以降毎日外出は可能です。休日の前日は外泊もできます。
 ※帰校門限22:15(翌日が休日の場合は23:00)
 ※おおむね土曜日、日曜日、国民の祝日は休日です。そのほかに、夏期・年末年始などに長期の休暇もあります。

サークル活動

※体育系各部のいずれかに属し、心身の錬成をはかります。
スポーツ系サークル サッカー部、野球部、バスケットボール部、水泳部、剣道部、柔道部、逮捕術部、カッター部、ヨット部、ラグビー部、テニス部
文科系サークル 邦楽部、行政法ゼミ、学生音楽隊、応援団、救難同好会、茶道同好会

国際交流

海外の学生を招いたり、休暇を利用して学生がアメリカ、ヨーロッパ及びアジア方面等を訪れるなど、海外との交流を活発に行っています。

待遇

入学と同時に国家公務員(海上保安庁職員)として採用されます。そのため、給与(月額約14万円)やボーナス(年2回)が支給されるほか、国土交通省共済組合員としての保険給付などが受けられます。また、入学金や授業料が不要なほか、制服も貸与されます。

福利厚生

寮(全寮制)のほか、医務室などの施設が完備されています。医務室には、医師・看護師が配置され、十分な保健指導を行っています。そのほか校内には売店、理髪店などがあります。

在校生からのメッセージ



1学年 脇野 奈都美
 海での仕事に憧れを持っており、海上保安庁の仕事は海における様々なことに関われると思ったことが入学の動機です。入学当初、私は運動が得意ではないため、体力的に辛いことが多々ありましたが、同期や先輩からの励ましに助けられ乗り越えてきました。皆さん、やる気と根気をもってぜひ受験してください。



2学年I群 小西 貴彦
 私は、海に関わる人を助けることは、とても多くの人の力になれるのではないかと考え入学しました。海上保安庁は、日本の広い海を約12000人の海上保安官で守っています。周囲を海に囲まれている日本にとって、これは決して多い数ではありません。現場に出た際に、即戦力として働けるよう日々勉強しています。



3学年I群 中田 早恵
 海が好きなので、海上保安大学校を受験しました。女性海上保安官にしか出来ない仕事現場にはあり、必要とされていると信じて、現在日々心身の錬成に励んでいます。現場に赴任していく先輩を見て、早く現場に出たいと思うことがありますが、卒業までの限られた時間の中で、必要な知識、技能の習得により一層励みたいと思います。



4学年I群 山下 海門
 海が好きであり、海上保安官になりたいと感じるなら、ぜひ海上保安大学校を受験してください。同じ志を持った仲間や上級生が、あなたを待っています。寮生活や訓練に対して不安があるかもしれませんが、新しい環境変化への不安は誰しもあるものです。在校生は、あなたを待っています。海上保安大学校を受験しましょう。

Q & A

受験生や保護者の方々から寄せられる「よくある質問」に対して、在学中の学生がお答えします。

Q 海上保安大学校を受験した理由は？

A. 海に囲まれた日本を守る海上保安庁に憧れ、海上保安大学校を受験しようと思いました。人の役に立てる保安官の職に就き、誇りと使命感を持って働けることも魅力の一つだと思います。**1学年 男性**

A. 海上保安友の会のイベントで巡視船「みずほ」に乗ったことがあり、その際に私たちのために賢明に働いている海上保安官の姿を見て、「自分もなりたい」と強く思ったことがきっかけです。**1学年 女性**

Q 入学前に不安だったことはありましたか？

A. 入学するまで一人で生活したことがなく、寮生活は不安でした。しかし、オリエンテーションによって寮生活の基本を学び、1か月もすれば慣れると思います。上級生も丁寧に教えてくれました。**4学年 男性**

A. 水泳が苦手なので、遠泳訓練についていける自信がありませんでした。初めは25メートルですら泳げなかったんです。しかし、教官の指導と同僚の励ましによって泳ぎ切ることができました。**2学年 女性**

Q 寮生活をはじめとする生活面全般の感想は？

A. 初めはプライバシーの問題が気になりましたが、生活に慣れてくると同期や上級生といつでもコミュニケーションを取れる環境が楽しくなってきました。とても充実した毎日を過ごしています。**4学年 女性**

A. 正直に言うと、寮生活は規則もあるし、時間にも厳しいので一人の時間を持つことは少ないかもしれませんが、仲間がたくさんいるため、それを苦に感じることはほとんどありません。**4学年 男性**

Q 好きな授業科目(訓練)は何ですか？

A. 国際法や刑事訴訟法などの科目です。教官もとても熱心で、授業が楽しいです。無人島にカッター(端艇)で行く「端艇帆走巡航」も非常に面白く、楽しみながら取り組むことができました。**4学年 女性**

A. 国際政治が好きです。日本から見た世界だけでなく、世界から見た日本がどのようなものか、また国際的な視点から、日本に何が求められているかなどについて学べるからです。**3学年 女性**

Q 訓練で厳しいと感じることがありますか？

A. 体力的に女子学生は男子学生に劣ってしまうので、厳しいと感じることもあります。しかし、努力次第でカバーできますし、体力面以外での得意分野で補うことも可能なので心配することはありません。**2学年 女性**

A. 訓練が厳しいのは当たり前。人命を救う仕事をするためには、常日ごろから鍛えておく必要があります。そうしないと現場で役に立つ技能を身につけることができません。「厳しいからこそ訓練なんだ」と自分に言い聞かせています。**2学年 男性**

海上保安学校

(京都府舞鶴市)



海に囲まれた美しい環境で、海上保安業務に必要な知識や技能を学び、あわせて心身を鍛錬。

実践的な授業で各分野のエキスパートを育成します。

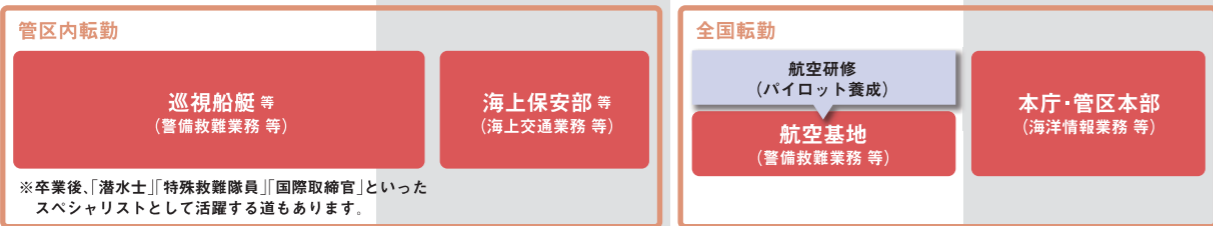
卒業後は巡視船艇の乗組員などとして配属され、能力や適性に応じ特殊任務を行うスペシャリストになる道もあります。また一定期間現場で仕事をした後、選抜された職員については、海上保安大学校の特修科に進み、幹部職員となる道もあります。

カリキュラム

海洋科学課程など、大学校にはない専門的なコースも設けられています。

カリキュラム	船舶運航システム課程(1年)			情報システム課程(2年)	航空課程(1年)	海洋科学課程(1年)
	航海コース	機関コース	主計コース			
全課程共通科目	基礎教養(法学概要、国際法、海上保安業務概要等)、英語、情報処理、小型船舶操縦、体育・基本動作、乗船実習、統合実習					
船舶運航システム課程、航空課程、情報システム課程共通科目	刑法、刑事訴訟法、海上警察、海上環境、航行安全、救難防災、主計、訓練				数学、基礎科学、海上安全業務、海象・気象、天文、水路業務管理、測量、図誌・印刷、通信運用	
各課程専門科目	航海、運用、海事法、海象・気象、通信運用	機関、電気機器、海事法、通信運用	主計(総務・経理・船舶衛生)、調理、通信運用	物理、数学、通信実技、情報通信、海上交通、電気機器、基礎電子工学、航行援助システム機器・管理	数学、物理、海象・気象、航空通信運用、海上航空業務、船舶概論	
取得できる資格	◎ 五級海技士(航海)筆記試験免除	◎ 内燃機関五級海技士(機関)筆記試験免除	△ 船舶料理士 △ 衛生管理者(船員法による)	◎ 第三級海上無線通信士 ◎ 航空無線通信士 ◎ 第二級陸上特殊無線技士 ○ 第二級陸上無線技術士	◎ 航空特殊無線技士 ○ 航空無線通信士	○ 第一級海上特殊無線技士 ○ 第二級陸上特殊無線技士
	○ 一級小型船舶操縦士					
※「四級海技士(航海)」「四級海技士(機関)」など、さらに上位の資格も取得できます。						
取得資格 ◎・・・卒業により取得 ○・・・在学中の受験により取得 △・・・卒業後一定の条件を満たすことにより取得						

卒業後の進路



幹部登用への道

一定期間現場で仕事をした後、選抜された職員については、海上保安大学校の特修科に進み、幹部職員となる道もあります。

年間行事

- 4月: 4月期入学式
- 5月: 春季行軍
- 6月: 基本動作大会
- 7月: いつもり祭(学生祭)
- 8月: オープンキャンパス
- 9月: 9月期卒業式
- 10月: 10月期入学式
- 11月: 秋季行軍
- 12月: 早朝訓練
- 3月: 3月期卒業式



1日の流れ

06:30	起床(起床整列・体操・清掃)
07:25	朝食
08:20	課業整列
08:30~11:50	課業
11:50~12:50	昼食・課業準備等
12:50~17:15	課業・サークル活動
17:30~21:00	夕食・入浴
20:00~22:00	自習時間
22:30	就寝(翌日が休日の場合は23:15)

※原則として17:15以降毎日外出は可能です。休日の前日は外泊もできます。

※帰校門限22:15(翌日が休日の場合は23:00)

※おおむね土曜日、日曜日、国民の祝日は休日です。そのほかに、夏期・年末年始などに長期の休暇もあります。

サークル活動

※体育系各部のいずれかに属し、心身の錬成をはかります。

スポーツ系サークル

ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、陸上、サッカー、ラグビー、柔道、剣道、空手道、逮捕術、漕艇(カッター)、MT(マルチトレーニング)、バドミントン、卓球

文科系サークル

英会話、学生音楽隊

国際交流

夏休みを利用して、学生がアメリカ、イギリスなどを訪れるなど、国際交流を積極的に行っています。

待遇

入学と同時に国家公務員(海上保安庁職員)として採用されます。そのため、給与(月額約14万円)やボーナス(年2回)が支給されるほか、国土交通省共済組合員としての保険給付などが受けられます。また、入学金や授業料が不要なほか、制服も貸与されます。

福利厚生

寮(全寮制)のほか、医務室などの施設が完備されています。医務室には、医師・看護師が配置され、十分な保健指導を行っています。そのほか校内には喫茶店、売店などがあります。

在校生からのメッセージ



航空課程 大庭 公貴

子供の頃からパイロットになるのが夢で、航空機を操縦して人を救助し、日本の海を守る海上保安庁のパイロットに憧れて入学しました。学校生活は厳しく、生半可な気持ちでは乗り越える事は出来ません。しかし、仲間たちと協力し共に努力することで、必ず乗り越えていく事が出来ます。受験生の皆さん、「希望果て無し」。絶対に諦めないでください。



船舶運航システム課程(主計コース) 岡本 拓真

海を舞台に、知力と体力を活かせる職業に就きたいと考え、海上保安庁に入庁しました。海外研修でヨークタウンのUSCGの訓練施設に行く機会をいただき、価値観を広げることが出来ました。毎日の訓練は体力的にも精神的にも厳しいです。しかし、現場での活躍を目指す仲間からの支えや、自分自身の努力と向上心によって大きく成長できる場であると思います。



船舶運航システム課程(航海コース) 間庭 優香

海上保安学校は、海上保安官として必要な技術・知識の習得はもちろん、全国各地から集まる多くの仲間と出会えるところです。座学、訓練、実習、寮生活など忙しい毎日、厳しく辛いことも多いです。しかし、ここで過ごす1年間は、私が将来、海上保安官として巡視船などで働くための基礎を身に付けることのほか、学生間で力を合わせ、共に乗り越え、絆を深める大切な時間です。



情報システム課程 原口 みゆき

国際協力に興味があり、世界規模での災害対応を行っている点に惹かれ、海上保安庁を志望しました。研修で海外に行くこともあり、私もシンガポールを訪れる機会を頂きました。将来は語学力を高め、外国で働きたいと考えています。受験生の皆さんもただ何となく受験するのでなく、確固たる目的意識を持って試験に臨んで下さい。

Q & A

受験生や保護者の方々から寄せられる「よくある質問」に対して、在学中の学生がお答えします。

Q 入学前に不安だったことはありましたか?

A. 体力面についていけるか不安でした。しかし学校では自分の体力に合った目標を立てて練習できますし、同期や先輩方の支えもあるので心強いです。船舶運航システム課程(主計コース) 女性

A. 寮生活で同期と仲良くやっていたいけるかが不安でした。しかし、最初はぎこちないしろう一日中一緒に行動するので、1か月もすれば親友のように仲良くなりました。船舶運航システム課程(機関コース) 男性

Q 寮生活をはじめとする生活面全般の感想は?

A. 入学前はものすごく厳しいところだというイメージがありましたが、実はそれほどでもありません。厳しくも優しい先輩や共に成長しよう同期・後輩たちと生活することは、とても楽しいです。情報システム課程 女性

A. 寮では食事や入浴などの生活面がきちんと整備されていて、とても暮らしやすいです。誰かが困っていれば、周りにいる先輩や同期が助けてくれます。寮生活のおかげで、学校全体にまとまりがあると思います。運航システム課程(航海コース) 女性

Q 好きな授業科目(訓練)は何ですか?

A. 抵抗する被疑者等を制圧する方法を学ぶ逮捕術の授業が好きです。一つの技術を自分のものにしていくことで、達成感を感じることが出来ます。情報システム課程 男性

A. 調理実習です。食材の切り方や味付けなど基本的なことはもちろんのこと、船舶内で必要で独特の調理方法も学ぶことができます。難しいですが、新しいことを知れて楽しいです。船舶運航システム課程(主計コース) 女性

Q 訓練で厳しいと感じることがありますか?

A. 耐寒訓練は、早朝から寒いなかで体力、気力、精神力を鍛えるもので、とても厳しい体験でした。しかし、仲間と励まし合い、お互いに声を掛け合うことで、乗り越えることができました。船舶運航システム課程(機関コース) 男性

A. 遠泳訓練で、実際に泳いだことのない長い距離を泳ぐことは、不安もあり心身ともに厳しかったです。しかし、同期の仲間が頑張っている姿を見て、自分も頑張ろうと思えることができました。情報システム課程 男性

海上保安官の職種紹介

海上保安庁の任務は「海の安全および治安の確保」をはかることです。現在、海上保安官約 12,600 人のうち半数は、その最前線である巡視船艇・航空機などで活躍。また陸上でも多くの職員がさまざまな職務に就いています。ここでは、そんな多岐にわたる海上保安官の仕事を紹介します。



海上で活躍する

四方を海に囲まれた日本は、世界第6位の広大な排他的経済水域を有し、漁業や海運といった経済活動、さらには海水浴をはじめとしたマリレジャーなど、海から多くの恩恵を授かっています。海上保安庁は、この広大な海域における秩序維持、海難救助、海上防災、海洋の環境保全、海上交通の安全確保などをはかるため、巡視船艇や航空機を駆使し、24時間365日昼夜を問わず、みなさんが安心して暮らせるように業務に励んでいます。

船艇乗組員としての仕事

巡視船は、遭難船の救助活動や国境線付近での領海警備、また密航・密輸・密漁・海洋汚染などの海上犯罪の防止、船舶交通の安全確保など、海の安全・安心を守るためにさまざまな仕事に従事しています。そのほか海洋調査や航路標識の見回りに従事する船艇、そしてこれらの船艇を事故なく安全に運航させるのも海上保安官の大事な仕事です。これらの船舶運航の業務内容は以下のとおりです。

船長	船の運航および各種業務を統括し、指揮監督する船の最高位の指揮官
業務管理官	各種業務全般を統括しながら、船長を補佐します
航海科職員	航海計画の立案、船体の整備など船舶の運航を担当
機関科職員	船のエンジンや電気系統、燃料の管理など船舶の機関部を担当
通信科職員	船の通信機器の運用・管理・整備など船舶の通信部を担当
主計科職員	船の総務・経理・調理・衛生管理などを担当

そのほか船艇の大きさや種類に応じて、「砲術科」「運用司令科」「飛行科」「観測科」などがあります。

航空機搭乗員の仕事

航空機はその機動性を活かし、いち早く事件・事故現場に進出し、情報収集や広範な海域での捜索、また監視業務や領海警備などを行います。航空機の多くは全国14か所の航空基地に所属しますが、ヘリコプターの中には大型巡視船に搭載されたものもあります。ヘリコプターのおもな任務は、巡視船などと協力してはるか洋上で発生した海難の救助や、船からは接近できない浅瀬に取り残された人を直接吊り上げて救助する仕事です。これら上空から海を守る「空飛ぶ海上保安官」の仕事には、以下のようなものがあります。

飛行科職員	航空機を運航するパイロット。航空機の運航責任者である「機長」も務める。
整備科職員	機体整備や燃料管理を担当。吊上げ装置を駆使し救助などを行うことも。
通信科職員	通信機器の運用・管理・整備を担当。航空基地や巡視船との通信を行う。

そのほか航空機の所属する基地には「基地長」「次長」「専門官」などがおり、地上から情報提供など航空機の運航支援業務を行っています。

TOPIC 海上保安庁の航空機

「海で活動する海上保安庁になぜ航空機？」と、疑問をもたれる方もいらっしゃるでしょう。実は、広大な海上の安全確保のためには、まったく性質の違う船舶と航空機を組み合わせ、より高い効果を狙うことが必要なのです。たとえば航空機は、船よりも広いエリアを短時間に見ることができます。また重要な機材や人を急いで運んだり、どうしても船の近づくことができない岩場や浅瀬で活動するのに適しています。ただし航空機は船に比べ天候の影響を受けやすく、1回の燃料補給で行動できる時間が短いなどの欠点もあるため、やはり主力となるのは巡視船。お互い補完し合うことによって、目的を達成することができるのです。



陸上で活躍する

海上の最前線で働く海上保安官と同様、陸上でも多くの職員が海の安全・安心を守っています。陸上での海上保安官のおもな業務内容は、以下のとおりです。

本庁の仕事

海上保安庁の中核である本庁は、日本の中央省庁が集まる東京・霞ヶ関にあって、基本的な政策の企画立案、業務に関連する法令の制定や改正、ほかの省庁との調整など海上保安行政の舵取り役を担っています。また職員の人事、福利厚生、教育訓練、船舶・航空機・情報通信システムの企画および予算の確保、広報活動など、現場の海上保安官が安心して業務に従事できるような仕事も行っています。

管区本部の仕事

海上保安庁は全国を11の管区に分け、それぞれに管区本部を設置し担任水域を定めています。管区本部は、傘下の海上保安部や海上保安署、航空基地などの事務所を統括し、大規模な事案発生時には、直接指揮し対処することもあります。

海上保安部署の仕事






海上保安部、海上保安署、航空基地、海上交通センターなどの事務所では、巡視船艇や航空機を駆使し、治安の維持や海難救助、船舶交通の安全確保などの仕事に、日夜努めています。

その他

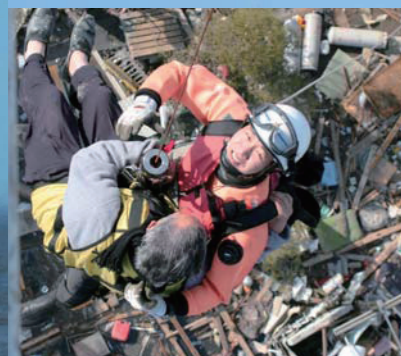
海上保安官を育成する海上保安大学校、海上保安学校などの教官として教育機関で勤務する海上保安官もいます。また内閣官房などほかの省庁への出向や、海外の大使館・領事館、国際機関で働く職員もいます。

スペシャリストとして活躍する

海上保安官の中でも、専門的技術を修得した者はスペシャリストとして、現場の第一線で困難な業務に従事しています。ここでは、その一部を紹介します。

特殊救難隊		船の転覆や火災、また、危険物を積んだ船における人命救助や火災消火など、特殊な海難救助に対応します。特殊救難隊員は、数年間の経験を積んだ潜水士の中から能力・適性を考慮して選ばれます。
機動救難士		全国各地で頻発する海難に迅速に対応するために、航空基地に救急救命士の資格を持った潜水士などを機動救難士として配置しています。彼らは海上の遭難者や漂流者をヘリコプターから降下して救助することができる、専門の職員たちです。
潜水士		船の転覆や沈没など海難に遭遇した人の救出などを行います（水深45mまで）。潜水士になるには、海上保安大学校で約2か月行われる「研修科潜水技術課程」を修了し、国家試験に合格することが必要です。
機動防除隊		タンカーの座礁事故などで発生する油や有害物質などの流出による海洋汚染の防除や、海上災害の防止のための専門家チームです。全国各地で発生する事故はもちろん、海外で発生した事故にも対応します。
国際取締官		ロシア語、中国語、韓国語など外国語を駆使して、外国人犯罪等の捜査を行います。これらの外国語は海上保安大学校における研修科（ロシア語、中国語又は韓国語基礎課程）において修得します。

そのほか、海洋調査に従事する「海洋調査官」、海上交通センターで働く「運用管制官」など、多種多様な海上保安業務を反映して、さまざまな分野のスペシャリストたちが海の安全と安心を守っています。





海上保安大学校

〒737-8512 広島県呉市若葉町 5-1
TEL 0823-21-4961 (代表)
URL <http://www.jcga.ac.jp/>



海上保安学校

〒625-8503 京都府舞鶴市字長浜 2001
TEL 0773-62-3520 (代表)
URL <http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/>

